

報道各位
美音堂プレス資料

2月14日現在
発行元：有限会社 美音堂



浜田真理子 作品概要

【ALBUM】

1st ALBUM 『mariko』 SFS-002/2002.6.30/¥2625(tax in)

1. THE CROW
2. SYUJI
3. のこされし者のうた
4. SEPTEMBER
5. Mariko's BLUES
6. song never sung
7. COUNTRY SONG
8. AMERICA
9. WALTZ FOR WOODY

'98年、島根の地元レーベル PLANKTONE からリリースされていたファースト・アルバムを再リリース。完全にネイティブ(英語)としか思えない完璧な発音と作詞センス、ジャズとローラ・ニーロなどの知性的シンガー・ソング・ライターと歌謡曲の親しみやすさが同居した奇跡的音楽性が衝撃を与える。地元レーベル時代、流通状況がとて素晴らしいとはいえなかったにも関わらず、都内量販店では軒並み3ケタを越すセールスを記録しました。英語詩を中心にしている中でポツリと収録された日本語曲「のこされし者のうた」のインパクトも鮮烈。

2nd ALBUM 『あなたへ』 SFS-003/2002.10.20/¥2625(tax in)

1. 純愛
2. 理由
3. Fruitless love
4. 月に聞く
5. 月の記憶(アルバム・ヴァージョン)
6. あしくび
7. 四十雀
8. 聖歌～はじまりの日～(アルバム・ヴァージョン)
9. あなたへ

英語詞を中心にしたファースト・アルバムと対を成す、日本語詞による待望のセカンド・アルバム。ピアノ1本の弾き語りとは思えない豊かな音の世界が各方面で静かに衝撃を与える。レコーディングは地元島根のコンサート・ホールを借り切ったの一発録音。シンプルなうたでありながら、J-POPともジャズとも歌謡曲ともフォークとも言えない、けれどもそのどれとも調和する世界は彼女独自の世界と言えるでしょう。2003年最大の話題作となった映画「ヴァイブレータ」のエンディング曲「あなたへ」を収録。

【LIVE ALBUM】

『mariko live～月の記憶～2002.11.9 at Bunkamura Theatre COCOON』(2003年作品)
SFS-2002(2CD)/2003.4.25/¥3360(tax in)

2002年11月渋谷文化村シアターコクーンで行われた東京初のワンマン・ライブの様態を収録したドキュメンタリー・ライブ・アルバム。英語詞を中心としたファースト、日本語詞によるセカンド、そしてオリジナル曲と同レベルで扱われる多岐に渡るカバー曲、それらが渾然一体となった彼女の本当の世界が堪能できます。ほとんどの観客が彼女を初めて観るため、会場全体に生まれるその緊張感も興味深く、ライブ三部作の第一章に相応しい内容。

DISC 1

1.introduction 2.Waltz for Woody 3.September 4.I wanna be loved by you
5.Just when I needed you most ~ 離別 (イビヨル) 6.白い船のゐる港 7.Love for sale

DISC 2

1.純愛 2.I'm so lonesome I could cry 3.あしくび 4.月の記憶 5.Fruits love 6.For sentimental reasons ~ 逢いたくて逢いたくて
7.聖歌 ~ はじまりの日 ~ 8.教訓 | 9.I'll get by

『mariko live ~ こころうた ~ 2003.11.21 at GLORIA CHAPEL』(2004年作品)

SFS-2003(2CD)/2004.3.12/¥3675(tax in)

内容は既存のロングセラー・アルバム「mariko」「あなたへ」からの浜田真理子オリジナル曲、毎度ライブでおなじみの歌謡曲・ジャズ・スタンダードからのカバー曲。そして注目すべき異例なこととして、新作オリジナル曲を先行収録している点であろう。多様な角度から浜田真理子の本質に迫り、新作への新境地の序章としても楽しめる内容。2003年11月に行われた品川教会グローリア・チャペルでのワンマン・ライブをDISC-1に、DISC-2には他の6ヶ所のライブからのベスト・テイクを収録した合計150分を超える2枚組。新作オリジナル曲を収録するなど多様な角度から浜田真理子の本質に迫り、各々の歌が彩る様々な表情を十二分に堪能できるカタログ的作品。新作への新境地の序章としても楽しめる内容。

DISC-1 live at GLORIA CHAPEL

1.The door 2.あなたへ 3.花笠道中 ~ Walking after midnight 4.ほのほ 5.抱擁 6.Love song
7.恋ごころ 8.Johnny guitar ~ 粋な別れ 9.ラストダンスは私に 10.Only women bleed
11.カノン 12.The core of you 13.朝日のあたる家 (朝日楼) 14.純愛 15.柔 16.安来節

DISC-2 at the other places

1. 予感 2. Ain't misbehavin' ~ 胸の振り子 3. 貴方のためのブルース
4. I've got you under my skin 5. のこされし者のうた 6. 船頭小唄 7. 水の都に雨が降る
8. The Crow 9. Song never sung 10. 再会の夜 11. かなしみ 12. 座頭市 13. 失恋ブルース
14. Sunday

『mariko live ~ romance ~ 2004.11.4 at Bunkamura Theatre COCOON』(2005年作品)

SFS-2004(2CD)/2005.3.12/¥3675(tax in)

毎年恒例となった秋のワンマン・ライブを収録、CD化。ライブ・アルバム3作目になる本作がシリーズ三部作の最終章となります。チケットが僅か30分で完売するほど、観客の期待が最高潮に達したライブ。その期待に寸分違わぬ“うた力”で聴衆を一気に引き込む様が聴きどころ。

2枚組のdisc-1はシアターコクーンでのライブ。タイトル通りラブソングで全編構成される。それはまるでミュージカルやオペラを観るように、各々の楽曲の含意する物語が連なり結末まで駆け抜け、一つのストーリーを形成する。浮かんでは消える“愛とは?”という命題をオリジナル曲、カバー曲で見事に演出される内容は、浜田真理子の真骨頂である。終盤に向かってヒートアップする凄みには圧巻。三部作最後を飾るに相応しい最高傑作ライブである。

Disc-2では、その他の様々な場所でのベストテイクをまるでもう一日のライブとして楽しめる内容に編集してあります。ボーナス・トラックとして市川準演出「白岳」CMで流れている『流転』を収録、全28曲。

DISC-1 live at Bunkamura Theatre COCOON

1. ゴンドラの唄 2. 理由 3. I'm gonna sit right down and write myself a letter
4. 霧笛 5. America 6. Beyond 7. Nearness of you 8. 黒の舟唄
9. のこされし者のうた 10. 俺はお前に弱いんだ 11. 逢わずに愛して ~ Do right woman - Do right man 12. Love song 13. 流転 14. 純愛

DISC-2 at the other places

1. 月夜の夢に 2. Baby mine 3. 離別 (イビヨル) 4. Black Coffee 5. Love me tender
 6. 昭和ブルース 7. しげさ節 8. 四十雀 9. 恋ごころ
 10. 湖畔の宿 ~ Cry me a river 11. 夜の底 12. みんな夢の中 13. 場末哀歌
- ボーナス・トラック 14. 流転 (スタジオ・テイク)

【SINGLE】

1st SINGLE 『純愛』 SFS-001/2002.6.30/¥1260(tax in)

1.月の記憶（シングル・ヴァージョン） 2.純愛（シングル・ミックス） 3.知りたくないの（アルバム未収録）

セカンドアルバムに先立ちリリースされたファースト・シングル。

タイトル曲「純愛」はすべての男女が「愛ってなんだ？」という命題をストレートに、そして静かに突き付けられる問題曲。現在のライブでは人気曲として定着。「知りたくないの」は菅原洋一のヒット曲のカヴァー。

2nd SINGLE 『聖歌～はじまりの日～』 SFS-005/2002.10.20/¥1260(tax in)

1. 聖歌～はじまりの日～（シングル・ヴァージョン） 2. 教訓（アルバム未収録） 3. さとうきび畑（アルバム未収録）

タイトル曲の「聖歌～はじまりの日～」はFM802の‘0211月のヒーローセッションに決定した。カップリングの2曲はカヴァーで、そのうち加川良の作品「教訓」は‘02年8月の「筑紫哲也 News23」終戦特集にエンディングでフルコーラス放映され局に問合せが殺到した話題のテイクです。全曲アルバム未収録のセカンド・マキシ・シングル

【MINI ALBUM】

Love song

SFS-009/2003.11.5/¥1785(tax in)

これまで執拗と言っていいほどシンプルなピアノだけによる弾語り作品を発表してきた浜田真理子が、その解禁ともいえるべき共演作。菊地成孔（alto sax）によるとろけるようなイントロから始まるタイトル曲は彼女の古くからの人気ナンバー。西田佐知子のヒット曲「アカシアの雨がやむとき」のカヴァーもオリジナルティ溢れる仕上がり。「アカシアの雨に打たれこのまま死んでしまいたい」と歌われるこの曲がタイトル曲とリンクします。つまり猛烈な「生」の意識。5曲中3曲で参加した船戸博史（contrabass）の演奏が冴え渡る。ジャケット・イラストは漫画家・近藤ようこ。